



燕市「読解力」育成プロジェクト通信

2月20日(月)、第3回研究主任会を燕中央公民館にて開催しました。令和4年度の各校の取組について、中学校区グループで情報共有しました。各校のよい取組については、令和5年度の取組の参考にさせていただきたいと思います。

「R4 読解力育成プロジェクト取組の振り返り」シートにて報告された内容の一部を紹介します。



授業での取組・長善タイム等での取組

- ・タブレットを使用した、毎日の音読の録音
- ・読む力を高める活動、活字に慣れ親しむ活動を週1回以上（新聞記事ワークシート、資料音読、読書）
→読む意欲の向上（初見の文章や長文への抵抗感軽減、あきらめずに読み進める気持ちや態度）
- ・長善タイムで「スキルアップの日」、「ロング読書の日」を設定し、全校共通に取り組んだ。
- ・毎週火曜日に、音読・視写・聴写に取り組む時間を設定する【ことばタイム】
- ・連絡帳を書くときには、教師が読み上げた内容を書く聴写の練習を行った。
- ・代理応答（友達の説明したいことを、代わって説明する）
- ・追究課題の共書き
- ・課題とまとめ、児童の思考の流れ、学習の過程や学んだことが分かる構造的な板書を工夫。
- ・考えを深めるための基本的な話型を示したり、自他の考えを可視化・共有化するための方法を示したりした。
- ・「アニメーション」という読書教育法を用いて、対話的な活動により読書に親しんだり、楽しんだりしながら集中力を養い、物語を読む力（時・場所の様子、順序性、人物の感情や行動などの内容理解）が高められるように取り組んだ。
→教師から提示される「作戦」を想定して、丁寧に読もうとする姿が見られるようになった。
- ・「ミニ授業参観」として、日々の授業を互いに公開し参観。参観後に授業について学びや感想を伝えあい、自らの授業改善に活かす。
- ・教科を問わず、それぞれが専門とする教科の特性に合わせて、読解力育成の視点を取り入れた授業を公開した。年間4回以上他の職員の授業を参観した。参観できない場合は、授業ビデオを撮影し視聴した職員もいた。
- ・国語科・算数科を中心に①～④を意識した授業実践
 - ①子どもが関心をもつ、課題の設定や発問の精選
 - ②文章や資料を読み取る時間の確保と手段の提示
 - ③読み取ったことに対し、自分なりの考えをもつ時間の確保と手段の提示
 - ④自分の考えを分かりやすく相手に伝える時間の確保と手段の提示



○普段の授業の中での取組

- ・言い換え 答え合わせ
「○○とはどういう意味」と問い返し、別の言い方で表現させる
2つの文を1つの文で、1つの文を2つの文で表現させる
- ・記録
見たことを図や表に表現させ、図や表で説明させる
技能教科の作業手順を文章で示し、手順通りに作業をさせる。



先生方の感想・子どもたちの姿

「学習が苦手な子が助けを求められるようになった」、「教え合うことが当たり前になった」

- ・ 指導案を作成する際に、「INPUT」、「THINK」、「OUTPUT」のどの段階で、どのようなRSを育成しようとしているか検討した。教師自身がRSの6つの視点について理解が深まった
- ・ RSの観点で教材研究することにより、児童の躰みや考えの流れを予想した授業を目指すようになった。
- ・ どんな言葉をつかって「OUTPUT」させたいのかを明確にすることで、「INPUT」から「OUTPUT」まで、授業の流れに一貫性が生まれた。

・ RSの視点をもって授業をすることで、教科書の文や言葉、グラフの読み取り、立式の意味など様々な教科で気を付けて指導することが増えた。児童も文の構成等、言葉にこだわりをもって授業に臨む姿が見られた。

・ 読解育成は、全く新しい取組をするのではなく、これまでに行ってきた指導の中にもRSに関わるものがたくさんあることが分かった。指導者が意識をして教材研究や指導をすることが大切である。

・ 子どもが躰みや文章や表現を教師が予測し、理解させるべき内容を丁寧に指導する。その延長線上にOUTPUTの場面があると、話題や論点が焦点化され、子どもが思考を深めることに効果的となる。

・ RSTの結果は前年度と比較して全体的に向上した、繰り返し行った活動で効果的であったと考えられる活動

①教科書を読む場面等で、意図的に「主語・述語」を問い返す活動【係り受け解析】

②算数の文章問題の状況を絵や図に表す活動【イメージ同定】

③授業中分からない言葉があったら、Chromebookで調べ、簡単な言葉で言い換えるという活動

【具体例同定】

・ これまでの指導の中にRSの育成の視点があったことに気づいた。これまでの指導は、間違っていないかったことという裏付けになり、自信になった。

課題

・ RSTの結果から「照応解決」に苦手さが見られた（自校のRSTの分析）。しかし「こそあど」言葉が出てくるたびに、それが何を指すか質問ばかりもしてられない…。「照応解決」の力をつけるための学習時間を位置づけたい。

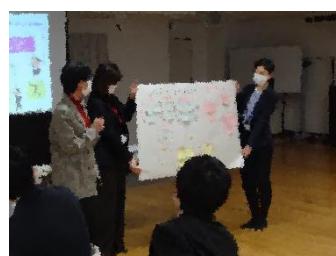
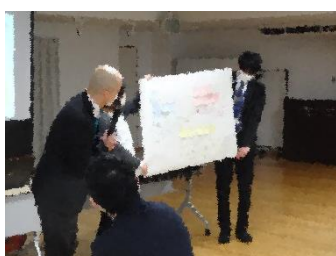
・ 児童の語彙を増やす必要がある。

・ 長善タイムで、読解力育成を目指した取組ができるよう校内体制を整えたい。

・ 読み取りに終始してしまい、その教科特性の面白さを損なう可能性があった。どの教科の、どの単元、どんな場面でRSを組み込むと、より効果的なのか、検証が必要。

・ 職員の異動がある中でも、RSの視点や授業づくりを転入職員にも周知することで、全校体制で読解力育成に取り組めるようにしたい

・ 授業公開後の研修レポートでは、「読解力育成を目的とするような授業になってしまった。」と振り返りがあった。



グループ協議の中では、自校に取り入れることはできないかと、他校の取組について熱心に質問されていました。また、読解力育成（RSに着目した授業づくり）の考え方について、研究主任の先生方の理解が深まっていることも感じました。

引き続き、各校の授業改革の取組の推進をお願いいたします。

